



インプラント治療の長期経過

医療法人社団山根歯科医院
理事長 山根 進

インプラントの上部構造を装着後、メンテナンスにはいっていきませんが、長期経過の途中において、いろいろなトラブルが発生してきます。これらのトラブルに対処するには、早期発見が大事で、リカバリーも簡単に済みます。したがって、メンテナンスは必ず、必要であります。トラブルは大きく分けて、上部構造合併症、生物学的合併症に分けられます。①上部構造合併症として一番多いのは、上部構造の破折であります。特に、審美性を考慮して、セラミックで咬合面を作製すると、破折する場合がおおくあります。当院では、前歯部位は天然歯と同じ質感が出せるセラミックにしますが、臼歯部は力が加わりますので、強度の強い白色系のジルコニアを使用しています。ネジの緩み、破折、フレームワークの破折等がおこります②生物学的合併症としては、インプラント周囲粘膜炎、インプラント周囲炎があります。インプラント周囲粘膜炎とは、インプラント周囲粘膜に炎症があり、出血、排膿がある病変であり、早めに処置すれば、リカバリーできます。インプラント周囲炎はインプラント周囲粘膜炎に加えて、骨吸収が観察される病変であります。原因は口腔清掃の不良によりインプラント周囲に炎症がおこり、それに咬む力が加わると、インプラント周囲の歯槽骨が吸収していきます。インプラント周囲の骨がなくなり、動揺をきたしたり、インプラント全体を粘膜で覆われたりすると、インプラントを摘出することになります。

このインプラント周囲炎になると、処置をしてもリカバリーは難しく、4、5年先に再発することがあります。したがって、自分での口腔清掃を十分してもらうことも大事ですが、メンテナンスで来院して、歯科衛生士に口腔清掃の状態を点検してもらい、口腔清掃をしてもらうことが大事だとも思います。

生物学的合併症	インプラント周囲粘膜炎	インプラント周囲炎
---------	-------------	-----------